

# 歌に触れる

遊縁の衆(人生を数倍楽しむ会)

◎平成二十三年六月二十五日(第八回)

(佐藤 亮照)

夕ヶノコの 匂となりしが 何故にてか 笹の舞い散る 竹の秋かな  
年ごとに 参加増えける 総会で 檀後の笑顔 ありがたきこと

(黒沼 貞志)

老夫婦 孫の写真と 鳩サブレー 帰路の車中は 話題が尽きぬ  
よみがえる むかしのテンポ 懐かしき 流れに委ね 味わう雑踏  
引越して 娘と過ごす 一週間 祝！新生活 願！慎ましく

(中村 昌平)

赤々と 朝日に浮かぶ さくらんぼ さわやかな風 収穫の時

(千葉 克明)

残雪の 山並み見える 白鷹路 堂々そびゆ 山形の春  
新緑の林の中で 野良仕事 生きる喜び 湧き出するかな  
暴風雨 過ぎさりあとの 朝日浴び 生きとし生きる 喜び想う  
車窓より 眺める田んぼ 青々と 遅れし田植え 取り返すかも  
間伐を 気づかず過ぎす 今の人 もやし の如き 杉の木 あわれ  
年輪を 重ねし年月 としつゆ いま 気づく 体調悪し 梅雨の六月